

ステンレス製建具

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和4年版16章6節に規定するステンレス製建具とし、簡易気密型は、対象外とする。

2. 品質・性能等

- （1）品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- （2）主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- （3）性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

3. 注意事項

- （1）標準仕様書令和7年版の改定において、「屋内に雨水浸入のおそれのある接合部には、その箇所に適したシーリング材又は止水材を用いて止水処理を行う。」との規定が追加されたが、確認していない。ただし、変更申請がなされ、確認済みの場合は、「申請者等情報」の欄に特記事項として、“接合部の止水処理有”と表示している。

項 目			品 質 ・ 性 能		備 考			
材 料	ステンレス鋼板	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1					
		表 面 仕上げ	HL					
	裏板、力骨、中骨、 補強板の類	材 質	JIS G 3302					
		めっき 付着量	JIS G 3302 による Z12 または F12 以上					
	くつずり	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1					
		表 面 仕上げ	HL					
	押縁留付け用小ねじ等		ステンレス製					
	構造用接合テープ		JIS Z 1541					
接 着 剤		アクリル樹脂系またはウレタン樹脂系の 2 液型						
形 状 ・ 仕 上 げ	鋼板類の厚さ		使用箇所		厚さ (mm)			
			一 般 部 分		1.5			
			く つ ず り		1.5			
			裏板、力骨、中骨		1.6 以上			
			補 強 板 の 類		2.3 以上			
	製品の寸法許容差・ 相対する辺寸法の差		対象部位		ドアセットの寸法	許容差 (mm)		
			幅および高さ	2,000 未満		± 1.5		
				2,000 以上 3,500 未満		± 2.0		
				3,500 以上		± 2.5		
			枠見込	120 未満		± 1.0		
				120 以上 150 未満		± 1.5		
150 以上 200 未満				± 2.0				
200 以上				± 2.5				
対象部位			ドアセットの寸法		相対する辺寸 法の差 (mm)			
			幅および高さの 相対する辺寸法 の差	2,000 未満				2 以下
		2,000 以上 3,500 未満		3 以下				
		3,500 以上		4 以下				
ガラス溝の寸法、形状等		[申請者の規定による。]						
外部に面する建具の水抜き孔		網入り板ガラス、線入り板ガラス、合わせガラス及び複層ガラスを受ける下端ガラス溝には、径 6mm 以上の水抜き孔を 2 か所以上設ける。また、セッティングブロックによるせき止めがある場合には、セッティングブロックの中間に 1 か所追加する。						
異種金属の接触により腐食のおそれのある箇所		接触腐食防止の対策を行う。						

評価内容（別紙）

ステンレス製建具

2

項 目			品 質 ・ 性 能	備 考
加工・組立	全般	注 意 点	加工および組立は、以下の内容を標準とし、特に雨仕舞および開閉具合に注意すること。	
		溶 接 部 、 隅 、 角 等	組立後、平滑に仕上げること。	
		外 観	建具には、使用上有害なきず、欠け、割れなどがないこと。	
		ステンレス鋼板の曲げ加工	普通曲げまたは角出し曲げ	
		角 出 し 曲 げ	切込み後の板厚が 0.75mm 以下の場合は、裏板を用いて補強すること。	
		各 部 材 の 組 立	水掛りを除き、面内胴付き部を小ねじまたはボルト留めとすることができる。	
	枠類	枠	隅は、上部は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接、下部は胴付きとし、外部に面するものは溶接とすること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）にすることができる。	
		く つ ず り	外部に面するものは両端を縦枠より延ばし、屋内（外部建具の屋内側を含む）は縦枠内に納め、裏面で溶接すること。	
		水 切 り 板	両端は、水返し付き、枠に小ねじ留めまたは溶接とすること。	
		中 か も い 、 無 目	両端は胴付き溶接、外部に面する箇所は見え掛りを避け胴付き部を全て溶接すること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）にすることができる。	
		方 立	両端は、胴付き溶接とすること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ 2.3mm 以上）にすることができる。	
		額 縁 、 ぜ ん 板	隅は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接とすること。	
		枠類のつなぎ補強板	枠、くつずり、水切り板等の見え隠れ部には、つなぎ補強板を、両端から逃げた位置から間隔 600mm 以下に取り付けること。	
		金物取合い補強板	枠の丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等が取り付け箇所には、裏面に補強板を取り付けること。	
	戸	かまち	縦がまちと上がま치의取合い	留めまたは胴付きとし、溶接または小ねじ留めとすること。小ねじ留めの場合は、裏面に補強板を当てること。その他は、胴付き溶接とすること。
			中抜き	1 枚板を中抜きする場合は、四隅を溶接すること。
			下がまち	下部を包まず、□ 形の力骨を通してはめ込み、溶接または小ねじ留めとすること。
		鋼板	表 面 板	力骨および中骨にかぶせ、接合は溶接、接着または小ねじ留めとすること。ただし、中骨は、構造用接合テープにすることができる。
			押 縁	小ねじ留めとすること。
			外 部 に 面 す る 両面フラッシュ戸	下部を除き、三方の見込み部を表面板で包むこと。
		力 骨 、 中 骨		力骨は戸の四周に設け、中骨の間隔は 300mm 以下とすること。
		金物取合い補強板		錠、丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等の取り付け箇所には、裏面に補強板を取付けること。

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考
性 能	ね じ り 強 さ	開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
	鉛直荷重強さ	残留変位が3mm以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
	開 閉 力	戸が円滑に開くこと、また円滑に閉じること。	
	耐 衝 撃 性	1回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。	
	開閉繰返し性能	開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
試験方法	1. ねじり強さ試験は、JIS A 1523 による。なお、載荷荷重は200N とする。 2. 鉛直荷重強さ試験は、JIS A 1524 による。なお、載荷荷重は500N とする。 3. 開閉力試験は、JIS A 1519 による。なお、載荷荷重は50N とする。 4. 耐衝撃性試験は、JIS A 1518 による。なお、砂袋落下高さは170mm とする。 5. 開閉繰返し試験は、JIS A 1530 による。なお、開閉回数は10 万回とする。ただし、ラッチの開閉試験は除く。 6. 試験体サイズおよび形式は、W 950mm × H 2,400mm 程度で丁番吊りとし、形式は、かまちタイプのガラス戸とする。ただし、中枠入りも可とする。また使用ガラス厚さは6.8mm とする。		